

群馬県公立大学法人

令和3年度業務実績に関する評価結果

令和4年9月

群馬県公立大学法人評価委員会

目次

はじめに	1
I 全体評価	3
II 項目別評価	4
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	4
1 群馬県立女子大学	4
2 群馬県立県民健康科学大学	6
第2 大学間の連携に関する目標	7
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	8
第4 財務内容の改善に関する目標	9
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	9
第6 その他業務運営に関する重要目標	10
資料	12
○ 群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領	12
○ 群馬県公立大学法人評価委員会 委員名簿	16

はじめに

群馬県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2第1項の規定により、群馬県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和3年度の業務の実績について、以下のとおり評価を行った。

1 評価方針

- (1) 大学の教育研究の特性及び大学の自主性や自立性に配慮しつつ、法人が適正かつ効率的に運営されるよう、法人の業務運営の改善や向上に資するものとする。
- (2) 法人運営の透明性の確保に資するよう、法人の各事業年度の業務運営に関する計画（以下「年度計画」という。）の進捗状況や中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）の達成に向けた取組の成果を明確に評価するものとする。
- (3) 法人がより魅力ある大学とするために実施する特色ある取組や工夫に対して、積極的に評価を行うものとする。

2 評価方法

評価は、「群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領」に基づき、全体評価及び項目別評価により行った。

(1) 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務実績の全体について総合的に評価を行った。

(2) 項目別評価

年度計画に定めた小項目ごとに法人が行った自己評価の内容を検証し、評価項目ごとに5段階で評価を行った。

凡例

(1) 法人による自己評価及び委員による検証

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を順調に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

(2) 評価委員会による評価

評価区分	評価内容
S	特筆すべき進行状況にある。(特に認める場合)
A	計画どおり進んでいる。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね計画どおり進んでいる。(Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上)
C	やや遅れている。(Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満)
D	重大な改善事項がある。(特に認める場合)

I 全体評価

長引くコロナ禍の影響により、大学活動の大きな転換が求められる中、着実に第一期中期計画を遂行し、成果を上げていると認められる。

令和3年度における中期計画の実施状況は、計画どおりに進んでいると評価する。

群馬県公立大学法人は、群馬県立女子大学及び群馬県立県民健康科学大学の2大学を運営する地方独立行政法人として、平成30年4月に設立された。

法人化4年目である令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けることとなったが、学修できる機会、環境の確保に向けた取組を進めた。感染状況等に注意を払いつつ原則として対面による授業実施や、ICTを活用した教育環境の整備、きめ細かな就職支援などを通じた学生へのフォローが実を結び、女子大学においてはTOEICスコアが目標値を大きく上回り、県民健康科学大学においては看護師等の国家試験合格率も100%近い数値となり、全国平均を大幅に上回ることが出来た。

法人による自己評価を検証した上で行った項目別評価については、全評価項目について、「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

法人化のメリットを活かした業務効率化を進めつつ、施設改修やICT導入等の教育環境の整備に加え、課外活動や学術研究等の充実に向けた取組の継続をお願いする。

特に、コロナ禍において、各大学が遠隔授業等の対応を余儀なくされたことで、結果としてICT導入が否応なく進んだ面もあるが、このことを前向きに捉え、教育のデジタル化については後戻りすることなく、一層推進していただきたい。

世界で活躍するグローバル人材と地元で活躍する地域人材を育成し、県立大学として広く地域や社会に貢献してほしい。

Ⅱ 項目別評価

項目別評価結果一覧

評価項目		評価委員会による評価結果	
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	1 群馬県立女子大学	A	計画どおり進んでいる。
	2 群馬県立県民健康科学大学	A	計画どおり進んでいる。
第2 大学間の連携に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第4 財務内容の改善に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		A	計画どおり進んでいる。
第6 その他業務運営に関する重要目標		A	計画どおり進んでいる。

第1 教育研究等の質の向上に関する目標

1 群馬県立女子大学

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目		法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
(1) 教育に関する 目標	ア 入学者の受入れ	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	イ 教育の内容	Ⅳ	年度計画を上回って実施している。	同左
	ウ 教育の実施体制	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	エ 学生支援	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
(2) 研究に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左
(3) 地域・社会貢献に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

「(1) 教育に関する目標 ア 入学者の受入れ、ウ 教育の実施体制、エ 学生支援」及び「(3) 地域・社会貢献に関する目標」については、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。その他2項目については、全員一致で法人による自己評価は妥当であると判断した。

全ての項目がⅣ又はⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 入学者数に占める県内出身者数割合はまだ達成されていないが、前年より0.4ポイント上昇している。
- 学生の授業満足度も高く、教材の工夫等に取り組み、英語運用能力も目標を大きく上回っている。
- 教員自らが、「目標管理評価シート」を用いて評価を行ったのは良い取組である。
- 学年に応じたキャリア教育と進路・就職支援を実施しており、就職力で選ぶ大学2022でも高い評価を獲得している。
- 論文数などが目標を大きく上回っており、研究推進の熱意が伝わってくる。
- 上毛新聞等に県立女子大のイベント記事が掲載されることが多く、地域に貢献していると思う。
- コロナ禍という緊急事態の状況においても、大学教育という使命と目標を見失うことなく、その遂行のために現場主義による臨機応変なる対応をし、最大限のアウトプットをしたと評価する。
- 感染状況を踏まえた対外広報活動の積極展開や対面授業の積極的な実施、実施方法を工夫した地域貢献活動の通年実施など、学生の学修意欲を低下させない努力を重ねた。
- オンライン留学やオンラインを活用してのキャリア支援。
- 地域連携事業や県教育委員会との包括連携。

（３）評価に当たっての意見等

- 学部の志願倍率目標達成にどうつなげるのか。大学院の定員充足計画をどのように考えるのか。
- 一部研究科の定員充足率が低くなっている要因を分析してみてもどうか。
- 県内出身者の割合が一定程度増えてきている中で、今後の少子化を見据え、隣接県の高校への訪問拡充について検討されてはどうか。
- 今後は外部資金獲得に向けた全学を挙げての支援体制の構築を望む。
- 地域とのコラボレーションの輪をさらに拡充させ、県行政との連携なども推進し、本県の潜在的な魅力を国内外に発信されたい。

2 群馬県立県民健康科学大学

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目		法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
(1) 教育に関する 目標	ア 入学者の受入れ	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	イ 教育の内容	Ⅳ	年度計画を上回って実施している。	Ⅳが適当
	ウ 教育の実施体制	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
	エ 学生支援	Ⅳ	年度計画を上回って実施している。	同左
(2) 研究に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
(3) 地域・社会貢献に関する目標		Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

「(1) 教育に関する目標 ア 入学者の受入、ウ 教育の実施体制」及び「(3) 地域・社会貢献に関する目標」については、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。「(1) 教育に関する目標 イ 教育の内容」については、年度計画を順調に実施しているとの意見もあったが、「Ⅳ（年度計画を上回って実施している）」が適当であると判断した。「(2) 研究に関する目標」については、年度計画を十分には実施していないとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。その他1項目については、全員一致で法人による自己評価は妥当であると判断した。

全ての項目がⅣ又はⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- 国家試験合格率 100%や就職率 100%、高い授業満足度など、少人数教育の実績が表れている。
- 3つのポリシー及びカリキュラムの検証を着実にを行い、コロナ禍でも効果的な対面授業及び工夫された実習など教育の質の維持・向上に努めたことを高く評価する。
- Jairo Cloudによる研究成果の公開とオープンアクセス環境の充実、電子書籍の導入、ICT環境の整備、図書館アクセスの向上など実施体制の向上に積極的に取り組まれている。
- 就職に関する綿密なニーズの把握、メンタルを含めた健康相談体制、アンケートによる学生生活の改善・向上に向けた方策など、きめ細かな支援体制を高く評価する。
- 研究面でも力を入れており、学部生、大学院生、教員それぞれで学会賞を受賞している。
- 研究に関しては、学内外を問わず情報交換が活発に行われている。
- 県内医療機関との共同研究及び地域連携事業の継続的な実施はもとより、新型コロナウイルスに対する県営ワクチン接種センターへの教員の派遣など、県立の保健医療大学としての責務と役割を十分に果たしているものと評価する。

- 科研費獲得に向けた全学的支援や県内の医療機関及び関係者との共同研究事業の推進などを通じ、群馬県の保健医療水準の向上に多くの貢献があるものと評価する。
- 学生支援の成果として、就職率 100%を毎年度しており、ぜひ継続してほしい。

(3) 評価に当たっての意見等

- 学部の志願倍率の低下傾向がやや心配。
- 看護学研究科博士課程の目標値達成への対応はどうか。
- 診療放射線学部で GPA を利用した卒業研究配属を実施した効果はどうか。
- 今後の人口減少に対応する志願者確保の方策に期待する。
- 入学者数に占める県内出身者数の割合データが欲しい。
- 学生の授業満足度、国家試験合格率とも全国平均は上回っているが、前年度より減少している項目がある。
- 研究に関する目標では、論文数や研究発表数など、いずれの指標も目標値に達していないなど改善点はある。
- 今後はウイズコロナを睨み、一般県民向け公開講座や公開授業などを積極的に展開され、さらなる知名度のアップに注力されたい。

第2 大学間の連携に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価	評価委員会による検証結果
大学間の連携に関する目標	Ⅲ 年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断し、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- 両大学の連携や国公立5大学の連携など、実績を出している。

(3) 評価に当たっての意見等

- 県内国公立5大学における定期的な情報共有の場を活用し、教育の質の向上と少子高齢化時代の大学経営に向けた課題解決など、学長が主体となって情報共有及び議論を行っていくべきものと思料する。

○教職員の連携は行われているようであるが、学生の連携が少ないように感じる。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
1 組織運営の改善に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
2 人事の適正化に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
3 効率的・合理的な業務執行に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

3つの小項目について、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- コロナ対応など、法人が一体となって取り組んで成果を出している。
- 各種の研修にも参加して、能力向上を図っている。

(3) 評価に当たっての意見等

- 主な事務局機能の集約化を図るとともに運営規程その他の要綱・要領の共通化に向けた方策について検討されたい。
- プロパー職員の導入に向け、早急に教育体制の構築及び人事評価項目の検証なども含めた土壌の整備を進められたい。
- 学長のリーダーシップの下で、事務局職員が能動的に法人運営に参画するような環境整備が必要であると思料する。
- 事務職員の能力開発を一層推進されたい。
- 複写サービスに限らず共同発注が可能なものを検討してほしい。
- 積極的に取り組んでいる感はあるが、各大学が少し遠慮している感がある。

第4 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
財務内容の改善に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	同左

法人が「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」とした自己評価は全員一致で妥当であると判断し、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

(2) 高く評価する取組等

- 財務内容の改善については計画どおり推進されている。
- 科研費獲得セミナーなどの取組が行われている。
- 契約の長期化等で経費を縮減するのは、法人化による効果である。

(3) 評価に当たっての意見等

- 教職員の経営に対する意識改革を推進し、全員が経営参画意識を持てる組織風土が醸成されることを望む。
- 外部経費の獲得と内部コストの削減と両方向の努力が望まれる。

第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
1 自己点検・評価等に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
2 情報公開等の推進に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

2つの小項目について、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 質保証に関する委員会を効果的に運営し、自己点検・評価等を行っている。
- ホームページなどを活用して積極的かつ効果的に情報公開を行うなど、自己評価・各種情報の公開が進んでいる。

（３）評価に当たっての意見等

- 適正に自己点検・評価を実施した上で、適切にPDCAサイクルが機能するよう教職員全員で問題意識を共有されたい。
- 内部質評価委員会を確実に機能させるとともにガバナンスを強化し、経営に関して透明性が維持されることを望む。

第6 その他業務運営に関する重要目標

（１）評価結果

評価委員会による評価	A	計画どおり進んでいる。
------------	----------	-------------

法人による自己評価と評価委員会による検証結果

年度計画における小項目	法人による自己評価		評価委員会による 検証結果
1 施設・設備の保全・活用に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
2 安全管理に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当
3 社会的責任及び法令遵守に関する目標	Ⅲ	年度計画を順調に実施している。	Ⅲが適当

3つの小項目について、年度計画を上回っているとの意見もあったが、「Ⅲ（年度計画を順調に実施している）」が適当であると判断した。

全ての項目がⅢ評価であるとの検証結果に基づき、年度計画の実施状況は「A（計画どおり進んでいる）」と評価した。

（２）高く評価する取組等

- 老朽化した設備の改修工事など、適宜実施した。
- パワハラ、アカハラなどのハラスメントの防止を継続されたい。

（３）評価に当たっての意見等

- 既存設備の老朽化に対して、改修等を着実に実行するとともに、長寿命化の検討や積極的な設備投資などを学生の教育に支障が無いように県との調整を進めるよう検討されたい。

- 大規模災害等に備えた危機管理体制の再構築を喫緊の課題に位置づけられたい。
- 組織としての適切な内部統制とその運用が望まれる。
- 女子大学のキャンパスのゼロカーボン化の取組に期待したい。
- コロナ対策計画、BCP 計画等の立案とともに実践も重要である。

【参考：全体についてのコメント】

- コロナ禍であっても、様々な工夫をしており計画どおり進められている。
- 発生から3年が経過してもなお出口が見えないコロナ禍だが、今後ウイズコロナ、あるいはポストコロナの時代においても、学生が魅力を感じて止まないような大学運営に期待する。
- プロパー職員の採用と優秀な教員の流出の防止は、慎重に対応されたい。

資料

○ 群馬県公立大学法人業務実績評価実施要領

平成30年10月15日
群馬県公立大学法人評価委員会決定

1 趣旨

群馬県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う群馬県公立大学法人（以下「法人」という。）の業務の実績に関する評価に関し、必要な事項を定める。

2 評価方針

- (1) 大学の教育研究の特性及び大学の自主性や自立性に配慮しつつ、法人が適正かつ効率的に運営されるよう、法人の業務運営の改善や向上に資するものとする。
- (2) 法人運営の透明性の確保に資するよう、法人の各事業年度の業務運営に関する計画（以下「年度計画」という。）の進捗状況や中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）の達成に向けた取組の成果を明確に評価するものとする。
- (3) 法人がより魅力ある大学とするために実施する特色ある取組や工夫に対して、積極的に評価を行うものとする。

3 評価の種類等

評価委員会が実施する評価の種類、対象・趣旨、実施時期は、次の表のとおりとする。

種類	対象・趣旨	実施時期
(1) 事業年度評価	各事業年度における年度計画に係る業務実績の評価 (中期目標の達成に向けた中期計画の進捗確認含む)	毎年度終了後
(2) 中間評価	中期目標期間の最後の事業年度の前々事業年度（4年目）における中期目標期間終了時（6年目）に見込まれる当該期間における業務実績の評価	中期目標期間 4年目終了後
(3) 中期目標期間評価	中期目標期間（6年間）における業務実績の評価	中期目標期間 終了後

4 評価方法

(1) 評価の手法

事業年度評価、中間評価及び中期目標期間評価は、それぞれ項目別評価及び全体評価により実施する。

ア 項目別評価

評価委員会は、年度計画又は中期計画に定めた最小の事項（以下「小項目」という。）ごとに法人が行った自己評価の内容を検証し、別紙に定めた評価の単位とする項目（以下「評価項目」という。）ごとに5段階で評価を行う。

イ 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、法人の業務実績の全体について総合的に評価を行う。

(2) 項目別評価

ア 法人による自己評価

(ア) 法人は、年度計画又は中期計画の実施状況を小項目ごとに次の4段階で評価し、当該実施状況の評価及びその理由等を記載した業務実績報告書（以下「業務実績報告書」という。）を評価委員会に提出する。

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を順調に実施している。
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

※中間評価及び中期目標期間評価においては、「年度計画」とあるのは、「中期計画」とする。

(イ) 法人は業務実績報告書に、(ア)に掲げるもののほか、評価項目ごとに法人として特色ある取組や工夫などを記載する。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書について、法人に対してヒアリング等を実施し、小項目ごとに法人が行った評価を検証する。

ウ 評価委員会による評価

(ア) 評価委員会は、イの検証結果に基づき、当該年度における年度計画及び中期計画の実施状況又は中期目標の達成状況を評価項目ごとに次の5段階で評価する。

【事業年度評価の評価区分】

評価区分	評価内容
S	特筆すべき進行状況にある。（特に認める場合）
A	計画どおり進んでいる。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね計画どおり進んでいる。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上）
C	やや遅れている。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満）
D	重大な改善事項がある。（特に認める場合）

【中間評価及び中期目標期間評価の評価区分】

評価区分	評価内容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている。（特に認める場合）
A	中期目標の達成状況が良好である。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	中期目標の達成状況が概ね良好である。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割以上）
C	中期目標の達成状況が不十分である。（Ⅲ～Ⅳの割合が概ね9割未満）
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。（特に認める場合）

(イ) 中期目標期間評価のうち大学の教育研究等の質の向上に関する目標の評価は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第79条の規定により、認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえて実施する。

(3) 全体評価

評価委員会は、(2)の項目別評価の結果を踏まえ、当該年度における中期計画の実施状況若しくは中期目標の達成状況並びに法人の業務実績の全体について、記述式により総合的に評価を行う。

5 評価結果

- (1) 評価委員会は、評価の結果を法人に通知する。
- (2) 項目別評価結果がB又はCの評価項目については、法人が自主的に業務運営の改善その他の所要の措置を講ずるものとする。
- (3) 項目別評価結果がDの評価項目については、評価委員会が業務運営の改善その他の勧告を行う。

6 業務実績報告書の提出時期

法人は、業務実績報告書を6月末日までに評価委員会に提出する。

7 その他

この要領は、必要に応じて改定を行う。

別紙 評価の単位とする項目

中期計画・年度計画項目		
評価項目	小項目	
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	1 女子大学	(1) 教育に関する目標
		ア 入学者の受入れ
		イ 教育の内容
		ウ 教育の実施体制
	2 県民健康科学大学	エ 学生支援
		(2) 研究に関する目標
		(3) 地域・社会貢献に関する目標
		(1) 教育に関する目標
		ア 入学者の受入れ
		イ 教育の内容
		ウ 教育の実施体制
		エ 学生支援
		(2) 研究に関する目標
		(3) 地域・社会貢献に関する目標
第2 大学間の連携に関する目標	—	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	1 組織運営の改善に関する目標	
	2 人事の適正化に関する目標	
	3 効率的・合理的な業務執行に関する目標	
第4 財務内容の改善に関する目標	—	
第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	1 自己点検・評価等に関する目標	
	2 情報公開等の推進に関する目標	
第6 その他業務運営に関する重要目標	1 施設・設備の保全・活用に関する目標	
	2 安全管理に関する目標	
	3 社会的責任及び法令遵守に関する目標	

○ 群馬県公立大学法人評価委員会 委員名簿

任期：令和3年7月18日～令和5年7月17日

氏名	役職等	備考
大宮 登	高崎経済大学 名誉教授	委員長
鈴木 宏子	共和産業株式会社 代表取締役社長	
田中 麻里	群馬大学 国際センター長	
西松 輝高	群馬県医師会 副会長	
松井 理	日本公認会計士協会東京会群馬県会 幹事	

(五十音順・敬称略)